

明るい話題が舞い込んだ

気が付けば師走を迎え、何かと気ぜわしい毎日ですが、皆さまお変わりございませんか？

私は先月末に市民病院にて人間ドックを受診してまいりましたが、何かと不規則になりがちな生活ですので、さまざまな病気の元となるメタボリックシンドローム（肥満）などにも注意を払い、少し体を動かすことを意識して体調管理にも努めようと感じたところです。

さて、まずはご報告となりますが、私が掲げます6つのまちづくりビジョンの中で「未来へ夢と希望を持てるまちづくり」に「SDGs」の推進。自然エネルギーを生かした脱炭素先行地域の実現」があります。今月号でも特集させていただいたところですが、国が全国で100カ所程度のモデル地域を選定していく脱炭素先行地域に匝瑳市が選定されました。これまで民間有志のゼロカーボン匠瑳推進協議会のメンバーや各種団体、市職員が連携しながら、そして市議会のご理解もいただき、計画書をまとめあげ、官民協働による地域の課題解決に向けた、これまでにない大きな事業が動き出すと思っています。詳しくは特集ページやホームページなどからもご確認いただければと思います。市民の皆さまと官民一体となり進めていく事業となりますので、



ご理解ご協力のおかげで、ろしくお願いいたします。

先月も、区長会や高校生とのまちづくり懇談会や中学生模擬議会の開催、さらには手話サークル（もくれん・もみじ）や未就学児のつどいの広場（つくし・たんぽぽ）にも赴き、直接現場に携わる方や市民の多くの声を聞くことができました。また、各地区で行われているいきいき百歳体操の会場や共興地区で行われた地区社協主催の独居高齢者向けのあおぞら市などの活動現場も視察させてもらい、それぞれに工夫を凝らし地域コミュニティの活性化や地域課題を自ら解決するなど、さまざまな活動の場にも出向くことができました。現在は予算編成時期でもありますので、このような声や課題解決策をどう次年度予算に反映させるかと、財源確保も念頭に書類とにらめっこが続きます。

師走は「師も走る」と言われるほど忙しい季節になります。年を越す準備で、組織も個人も忙しい毎日ですが、ご自愛のほどお願い申し上げます。

匝瑳市長 宮内康幸

匠瑳探訪

No.211

多田屋活版所

八日市場を歩く

1月の第2号、同年4月の第3号の1巻3冊（山武市歴史民俗資料館所蔵）を初めて目にすることができました。これらは、当時の福岡町（町名は後に八日市場町となる）の「多田屋活版所」で印刷されました。「千葉県の歴史」



多田屋活版所で印刷された『阿羅々木』3冊（山武市歴史民俗資料館提供）

昨年12月に閉店した多田屋八日市場本店所蔵の「タダヤ能勢」の法被や看板、店内の写真などが今年の夏、千葉市立郷土博物館の企画展「商人たちの選択」に展示されました。展示物の中では、1908（明治41）年10月発行の短歌誌『阿羅々木』創刊号、翌年

（通史編近現代1）によると、東金多田屋（東金市）は1872（明治5）年の学制発布に伴って小学校が設置されると、千葉県下の教科書販売や書籍販売など書店の基礎を固めたとされます。福岡町に書籍と洋物を扱い、印刷所も兼ねた「多田屋支店」を開設したのは1893（明治26）年のこととされます。

活版所は、店舗東側の多田屋洋品部の場所であり、閉鎖後は敷地内に移築され、今回の解体前まで倉庫として使用されていました。大正から昭和前期ごろに撮影されたとみられる活版所の写真には、手前に活版の活字棚があり、輪転機や裁断機などを操作する社員が写っています。奥には名刺や年賀はがき印刷受注の宣伝ビラが掛かっかけていて年末に撮影されたようです。

『阿羅々木』は1908（明治41）年9月、伊藤左千夫（現在の山武市殿台生まれ）と藤真一郎（現在の山武市埴谷生まれ）が呼び掛けた「正岡子規七周年忌歌会」の席で雑誌発行が決められ、翌月に第1号が出版されました。左千夫の東京移転により誌名を『アララギ』と変え、1909（明治42年）年9月から月刊として刊行されました。

多田屋活版所では1年間、3冊の印刷にとどまりましたが、記念すべき創刊号の足跡が残されました。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班 ☎73・0080

文芸コーナー

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班
〒289-1219 匝瑳市八日市場八793番地2
☎73・0080 FAX72・1114

短歌

依知川 雅一 推薦

雲間よりのぞきし月よ十三夜

患う眼へ想いとどめん

秋深む今年も怖いウイルスに

腕を差し出し笑顔で接種

とどまるかやつと実った柚子ひとつ

収穫をする冬至の日まで

ながき夜に幼きころの夢を見る

窓打つ風にさびしさつのる

テレビから蜂の巣駆除が流れてる

あの人の声思わず聴こえ

古希すぎでの試験勉強楽しけり

孫の応援に屈む背伸ばす

ハクビシン今年はどうぞ食べないで

もの干しぎおに落花生吊す

土いじりせざる幾月放置せし

ゴム長靴に小蜘蛛棲みをり

作者逝き谷津田の畦に歌った「昴」

虫 鳥たちに聞いてもらった

石田 治

稲葉 雪子

川口 城司 推薦

鈴木 志子

木下 昌子

小川 一夫

岩井のぶ子

古谷由美子

大木 洋一

鈴木 和子

俳句

椿 和枝 推薦

小春日や地蔵の口のやや広し

定型外郵便銀本出でにけり

星月夜煙草の香り牛舎より

小鳥来る髪形変えてへアサロン

そちこちに翔平のゐる菊人形

芦刈の間漕ぐ棹の透きとほる

大根蒔くうねに米寿の鋏光る

熟したるカキは鳥より我が先

檸檬枝挿してニヶ月芽が動く

子は宝元氣に育て七五三

爺婆がへそくり集め七五三

曾孫への祝儀が弾む年金日

少子化で御近所にない七五三

鳥居前刀を収め礼をする

七五三親が目立ってどうするの

七五三昔赤飯今ケーキ

医者帰り手に持つ薬大袋

スマホ塾小遣いアツプ孫先生

からすうりゆるれる隣でからす鳴く

川口 城司 推薦

鈴木千恵子

林 長三郎

江波戸京子

岡田けい子

佐久間美智子

土屋 秀雄

野仲 妙子

石田 健

川口 城司 推薦

岩井 やす

大川 宣子

鈴木 志子

佐々木之子

安藤 建子

吉井 八流

椎名 晴江

隊員マサの

そうさ発見発信

No.12

地域おこし協力隊員、北條将徳さんがSNSで発信した匝瑳市体験をピックアップしてお知らせします。



みんなが主役のお店を！

ブックカフェ&リユースのお店「ぐるり」が本町通り商店街に来年1月オープン予定です。11月下旬から工事が始まり、お店の内装は地域の皆さまのご意見を聞きながら手作業で作っています。お手伝いはもちろん、「こうしてほしい」などのお声掛けも募集しています！

この構想のきっかけは、この1年で目の当たりにした「居場所がない」という課題でした。行く当てのない高校

生や、子育て中に一息つきたい親御さんなど。追い打ちとなったのが、「多田屋」さんの閉業です。街の文化と歴史の象徴の喪失への皆さんの惜しみの声を聞きました。

課題解決の鍵は「1%」。今よりたった1%多くのお金を地域に落とし、今いる人口の1%の移住者を集めれば、その地域は持続可能になるという研究があります。この店を起点に多様なモノ・人・情報が動き始め、新しいつながりができることで、文化、子育てや教育、社会福祉、地域経済の好循環に

つながればと思います。

お店のコンセプトは「みんなが主役」。本棚の区画貸しで皆さんの趣味や売り物を展示したり、イベント企画などで、市民の皆さんが自分らしく楽しくいられる仕組みを作ります。

より良いお店になるよう、少額で寄付を募るクラウドファンディングも行います。一緒にこの街を元気にしませんか？ よろしくお願いたします。